

会議録

会議の名称	第3回 部活動地域展開検討委員会
開催日時	令和 6年 6月 25日(火) 15時～16時45分
開催場所	市役所5階 5-2会議室
出席者	崔田委員長、赤羽副委員長、大西委員、堀池委員、宮坂委員、 谷本委員、友田委員、阿藤委員、高橋委員、太田委員、山岸委員 安部委員、木島委員、冠委員、新井委員
事務局	教育部教育指導課 下斗米課長、阿部副主幹、
議題	1 部活動地域移行の方向性の確認について
資料の名称	1 第3回部活動地域移行検討委員会スライド資料
会議の結果	
議題1	部活動地域移行の方向性について確認、説明、質疑
議事の概要	
事務局	<p>部活動地域移行の方向性について確認、説明。</p> <p>地域連携と地域移行の違いについての確認 地域連携は、学校部活動であり学校教育の一環。学校の責任下で行われる。地域移行は、地域クラブ活動であり、社会教育の一環。地域クラブ活動の運営団体・実施主体が行うもので、学校部活動とは責任主体が異なる。</p> <p>地域連携からスタートし、地域移行につなげていく。段階的に学校の活動とは切り離す。休日だけではなく、平日も含めた段階的な地域移行を検討する。</p> <p>休日だけでなく、平日も含めた段階的な地域移行を検討する。 休日のみの移行では、生徒は、平日は部活動、休日は地域クラブ部活動という、実施主体、責任主体の異なる活動に参加することとなる。部活動は必ずしも教師が担う必要のない業務であることや、教職員の負担軽減という点からも平日を含めた段階的な地域移行を検討する。</p>

～協議における主な意見等～

委員

演奏家連盟としては、協力をしたいという演奏家の方もいるし、そうではない方も当然いる。地域クラブ等への協力は個人によって違いがあると思うので、難しさを感じる。

委員

活動の受け入れ先は複数なければ、中学生の人数を受けて入れていけないと思う。それに見合うだけの指導者がいるのだろうか。ボランティアでの指導は難しいと思う。指導者の人材バンクのようなものがあると良いのではないか。現在の指導員等の幅が広がってくると良いと思う。人材確保の方法について検討が必要である。

委員

費用面についても、どこから、どの程度お金が出るのか。団体が立ち上がった時、その団体への費用面の支援があるのか。受益者負担がどの程度になるのか。保護者等への説明は早いうちにする必要がある。

委員

少ない費用で、全員が参加することのできる部活動の意味は大きい。子どもにとって大切な場所である。現状の部活動をそのまま引き継ぐことは難しいかもしれないが、地域移行しても部活動の良さを残していきたい。どのような形が考えられるか考えていきたい。色々な立場の人など、多くの人を巻き込んで議論していく必要を感じる。

委員

公認指導者の人数は減少している。人材の確保は大きな課題である。例えば大学生など、中学校で部活をやっていた生徒が指導者として協力してくれる例もある。そのような多様な人材が活躍できるシステム作りができると良い。人材確保のためには費用面の保障が大切。

委員

文化部の子どもたちの居場所についても考える必要がある。公民館や文化センターで活動しているサークルなどがある。そういった方々を巻き込んでいくことで、指導者確保につながることもあるのではないか。部活動という、子どもに均等に与えられている活動の場がなくならないようにしたい。お金があるかどうかや、送迎できる保護者がいるかどうかで活動できるできないが決まってしまうことのないよう、市の財政支援等も検討が必要であると思う。

委員

地域連携の部分について、スポーツ団体の加盟団体等から指導者の派遣ができないか話題になった。種目にもよって状況が違うので一概には言えないが、できるところから始めてみるとよいのではないか。できるところでモデルを作って示していくことで他の団体に波及していくこともあるのではないか。

委員

競技、種目によってかかる費用も違う。そういったことも調査していく必要がある。

委員

大会の運営やあり方をどのようにしていくのか。勝ちたいという生徒と、余暇的にやっている生徒が同じ大会にでる、というのも難しいと思う。

委員

兼職兼業の制度設計や待遇面はどうなるのか。兼職兼業をどれくらいの方がやりたいと思っているのか。兼職兼業をすることで、何を不安に思っているのかなど、アンケートをとる必要があると思う。

委員

保護者や地域の方へアンケートをとる必要もある。送迎や活動場所など心配に思っていることがあるのではないかと。地域の方へのリサーチも必要だと思う。学校開放、市の施設活用など、活動場所に保障があると協力もしやすいのでは。